

第6章

横断的な取組

第6章 横断的な取組

ひらつか健康・食育プラン21を構成する第3次平塚市健康増進計画及び第3次平塚市食育推進計画では、次の3つを共通する活動の軸として取り組みます。

1 市民との協働・産学官連携による健康づくり・食育の推進

健康づくりや食育の取組は幅広い分野にわたる関係者が、その特性や能力を活かしつつ、主体的に、かつ、互いに連携・協働していくことが重要です。効果的に健康づくり・食育を推進するために、民間事業者・大学等の力を活用し、取組を活性化します。

食生活改善推進団体

市民生活の多様な場面における「食育」を実践している市民ボランティア団体。

- ・ 地域公民館での食育活動
- ・ 減塩等に関する普及啓発
- ・ ライフステージ別調理講習会（親子、青・壮年期、高齢者等）
- ・ 市協力事業（防災訓練での防災食普及等）
- ・ 平塚市社会福祉協議会への協力

健康推進員連絡協議会

「運動」、「休養」をテーマに市から委託を受け、健康づくり活動に取り組む市民ボランティア団体。

- ・ 健康ウォーキング、市のご当地体操「くすの木体操」、体力チェックを通じて、市民に運動の機会を提供
- ・ 安全に運動を行うために家庭血圧測定の普及啓発



食環境づくりに取り組む地元企業

市内スーパーでは、市の健康づくり・食育事業に協力。

ポスター掲示や、商品棚への「減塩」表示など、市民が健康づくりを実践するための食環境整備に貢献。



健康づくりの連携協定企業

健康づくりに関して様々な連携事業を実施。

- ・ 働く世代等の市民に向けた家庭血圧測定の普及啓発
- ・ 熱中症予防対策
- ・ がん検診の普及啓発
- ・ 運動の普及啓発 等

大学

- ・ 大学・研究機関とフレイル対策
- ・ 大学と健康づくりに関する交流事業

※産学官連携：産業界（民間企業）、学校（教育・研究機関）、官公庁（行政）の三者が連携して行う共同研究や、民間企業と教育・研究機関の間を行政が結びつけること。

2 デジタル技術を活用した健康づくり・食育の推進

健康づくり・食育の推進する取組を着実に実施するとともに、より多くの市民が主体的、効果的に情報入手や活用ができるよう、デジタル技術を有効活用していきます。

(例) オンライン講習会、動画配信、健康づくりに関するアプリの普及 など

市民が健（検）診情報を活用できるシステム
 PCやスマートフォンからマイナポータルを通じて、
 健（検）診情報を閲覧できます。
 ・乳幼児健康診査、がん検診、成人歯科健康診査等



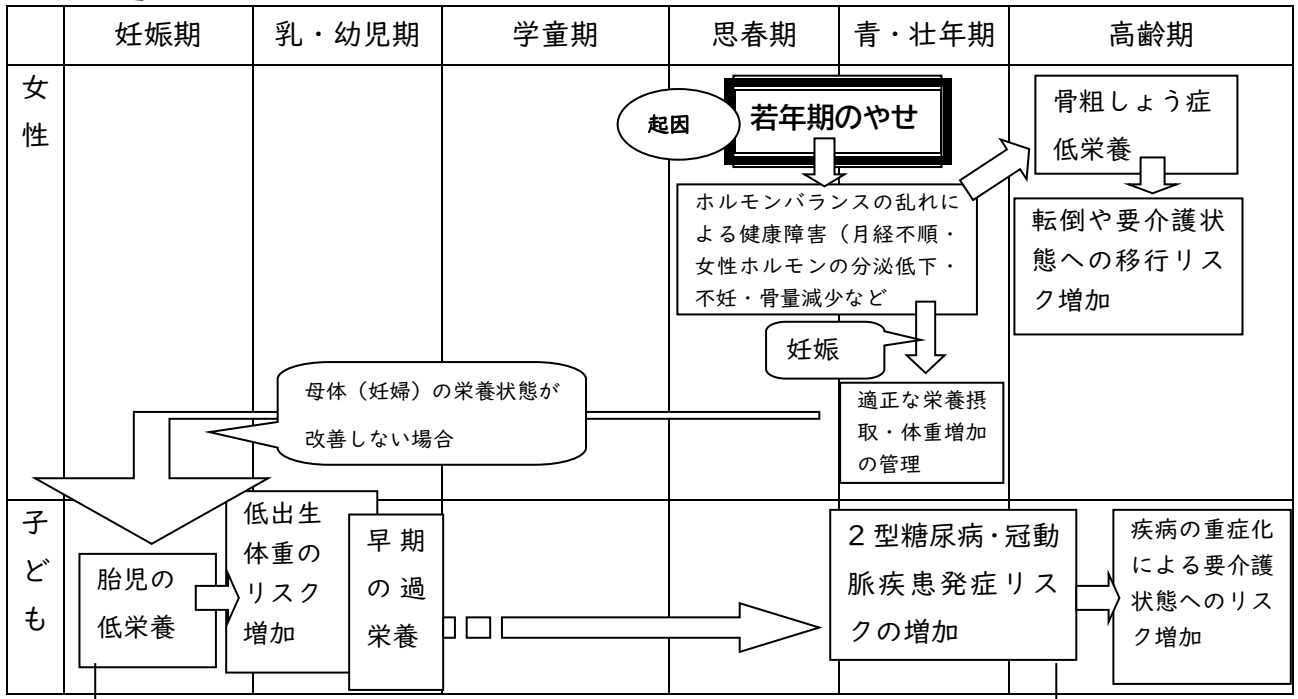
オンライン育児相談

3 ライフステージ・ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり・食育の推進

平塚市健康増進計画（第2期）及び第2次平塚市食育推進計画では、ライフステージ（乳・幼児期、青・壮年期、高齢期等）の人の生涯における各段階）に応じた健康づくり・食育を進めてきました。本計画では、さらに、ライフコースアプローチ（胎児期から高齢期に至るまで人の生涯をつなげて経時的に考えること）を踏まえて、取組を推進します。

(例) 「若年女性やせ」を起因として予測される経時的な影響（図）

- ・女性ホルモン分泌異常に伴う健康障害
- ・高齢期における骨粗しょう症、低栄養状態→要介護状態への移行リスクの増大
- ・次世代の生活習慣リスクの増大



※DOHaD 学説(Developmental Origins of Health and Disease)

DOHaD 学説(ドーハッド学説)

出生体重や胎児期の栄養環境などが児の長期的な健康や種々の疾患発症リスク形成に関連するという学説

【備考】「肥満症診療ガイドライン」2022